埼玉県農業大学校が熊谷へ

平成27年4月、埼玉県農業大学校が鶴ヶ島市から市内江南地区へ移転、開校します。

◆農業振興課（妻沼庁舎）　℡048−588−1321
◆埼玉県農業大学校（鶴ヶ島市）　℡049−285−4984

写真（上下）は、埼玉県農業大学校（鶴ヶ島）で学ぶ学生の皆さん

農業大学校とは

昭和20年、農村におけるリーダーの育成を目的に埼玉県立農民道場として誕生し、これまでに5700名を超える卒業生を輩出しています。

近年は、入学者の約7割を農家でないサラリーマンなどの家庭や普通高校出身者が占める状況で、農業参入に向けた重要な施設になっています。

在学中は、農業経営に必要な技術と知識を学習するとともに、各種資格・免許が取得可能で、卒業後は新規就農や農業関連産業へ就職するなど学校で学んだことを活かして各方面で活躍しています。

今後は本市農業の新たな担い手の確保や本市産業の活性化に貢献することが期待されます。

専攻等

学　科	専　攻	定　員	修業期間
野　菜	施設栽培	30人	2年
	露地栽培		
水田複合	水田複合	5人	
花植木	花　き	15人	
	植木造園		
酪　農	酪　農	5人	
短期農業	短期野菜	35人	1年
	有機農業		

農業大学校と地元との連携

次のような地域に密着した活動を行うとともに、農業大学校祭や公開講座の開催など各種の催事を通じ、地域の活性化に努めます。

◆農産物直売所等

江南農産物直売所や市内スーパーでの農大農産物コーナーの設置や学生による販売実習を通して地域との交流を図ります。

◆立正大学

平成26年2月に締結した「立正大学と農業大学校との連携協定」に基づき、学生および教員の交流や施設の相互利用を行います。

◆農産物加工等

こうなん農産加工倶楽部や埼玉県栄養専門学校と連携し、農産加工品やレシピの開発を進め、農業の6次産業化に取り組みます。

活躍する卒業生に聞きました！

「夢は法人化と後輩の受入れ」

久保田 康士さん

施設野菜2年コースを卒業した市内万吉の久保田康士さんは現在50aのハウスでトマトの生産・加工・直売を行っています。

子どもの頃からトラクターなどの農業機械が好きで、愛情を込めてトマトを育てる両親の姿を見ているうちに自然に就農を決めていたそうです。

農業大学校では、授業はもちろんですが、北海道のスイカ農家での研修や仲間との交流などを通して多くのことを学び、今もその経験が活かされています。

現在は、4Hクラブで同じ志を持つ地元の仲間と農業を通じて地元を発展させようと活動しています。

「自然が相手の農業は、苦労も多いが、やればやるだけの成果があって楽しい」と語る久保田さん。将来は経営を法人化し、農大の後輩を社員として受け入れたいと、農業に対する熱い思いを話してくれました。

※熊谷4Hクラブ協議会…熊谷市の青年農業者組織のひとつ

県産木材を使用した新校舎

新校舎は、「木のぬくもり、香り、素材感を感じてもらう」というコンセプトで、柱や梁の骨組みを積極的に見せるデザインです。使用した木材の97％が県産木材です。

また、食堂とメディアギャラリーの天井は、熊谷産米「彩のかがやき」のもみがらを加工し、板状にした「もみがらエコボード」を使用しています。

もみがらエコボードが使用されている天井

もみがらエコボード

第10回熊谷市産業祭のお知らせ

新鮮でおいしい旬の地元農産物や、地元農産物を使った料理の販売があります。また、市内農家の皆さんが丹精こめて作った農産物が勢ぞろいする農産物共進会もあります。

ぜひ、皆さんお誘い合わせのうえお越しください。

とき　11月15日（土）・16日（日）　10時～15時

ところ　熊谷スポーツ文化公園（にぎわい広場・陸上競技場内）

内容　農産物共進会、農畜産物・商工業製品の展示・販売等

フォトニュース

大人の本気の勝負！

9月20～22日、日本スポーツマスターズ2014埼玉大会ソフトテニス競技会が、熊谷さくら運動公園で行われました。35歳以上のシニア世代の選手達の、白熱した試合が繰り広げられました。

みんなで交通ルールを守りましょう！

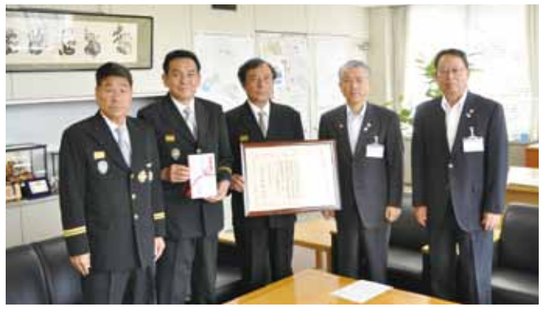
9月19日、「秋の全国交通安全運動出発式」が商工会館大ホールで開催されました。久下小学校自転車チームによる交通安全宣言が行われ、出発式の後、市役所前で交通事故防止を呼び掛けました。

市内にもこんな施設があったんだ

10月2日、市内の施設を巡るバスツアーが行われました。当日は、市議会議場に始まり、プラネタリウム館までの行程でしたが、参加者からは初めて巡る施設に驚きの声が聞かれました。

競泳の古賀選手、アジア競技大会3連覇！

熊谷市親善大使である古賀淳也選手が、アジア競技大会（韓国仁川）競泳男子50m背泳ぎで優勝し、大会3連覇を達成しました。10月3日、市長を表敬訪問し喜びの報告をしました。



地域防災に貢献

10月3日、熊谷市消防団長および副団長が防災功労者内閣総理大臣表彰の受賞報告のため市長を表敬訪問しました。昨年9月の竜巻や台風被害に際し被害の軽減に貢献した活動が認められ受賞したものです。

清掃・点検で安心安全

9月20日、埼玉県電気工事工業組合熊谷支部の皆さんが、市と締結した防犯協定に基づき、熊谷東小学校・熊谷西小学校・富士見中学校の周辺に設置された防犯灯の清掃・点検のボランティアを実施しました。

おたよりパレット

テーマ

私が続けている健康法

普段の生活の中でできる、健康を保つための秘訣を教えていただきました。これからどんどん気温が下がっていきます。冬に向けて体調を崩さないよう、無理せず楽しく続けてくださいね。
おたよりパレットは、市ホームページhttp://www.city.kumagaya.lg.jp/でも、更に詳しく紹介しています。

市報クイズ9月号で寄せられたご意見を紹介します。

- 以前は、買い物には車で行っていましたが、一年くらい前から自転車を利用するように心掛けています。（40代・女性）
- 朝、目覚めたと同時に窓を開け、大きく伸びをして深呼吸。そしてコップ1杯の水を飲むことが私の健康法です。結婚して熊谷の地に住んでからずっと続けていることです。おかげさまで、大病なし！（50代・女性）
- 毎日、土手を5kmほど歩いています。色々な植物から季節の移ろいを感じることができます。また、途中で野鳥を観察できることも楽しみの一つです。（60代・男性）
- お風呂でのストレッチを続けています。ゆっくり湯船に入りながら、全身のストレッチをするととてもスッキリして、次の日も体が軽く、気持ちよく過ごせるのでおススメです。（30代・女性）

ようこそ熊谷へ！

9月26日　姉妹都市のインバーカーギル市にあるサウスランド・ガールズ・ハイスクールの生徒達が市長を表敬訪問しました。生徒達は姉妹提携校の熊谷女子高校に通い、日本の文化や日本語を学びました。

最優秀賞
崔 恩美（チェ ウンミ）さん

笑顔がいっぱいの児童クラブ

9月1日に熊谷西小学校の余裕教室を活用して整備した第3箱田児童クラブを開設し、22人の児童が入室しました。9月25日、市長が施設を訪問し、児童達とゲームなどを行い楽しくふれあいました。

日々の思いを日本語に乗せて

10月5日、商工会館大ホールで「第22回外国人による日本語スピーチコンテスト」が開催されました。20人の外国人の皆さんが、文化の違いや日々の生活の中で感じたことなどを発表しました。

美味しい品々が勢ぞろい

10月4日、「彩の国畜産フェア・牛乳乳製品フェア2014」が江南総合文化会館ピピア駐車場で行われました。県内産の肉や農産物の販売をはじめ、ビンゴゲームや試食会等が行われ、多くの方で賑わいました。

命の大切さを学びました

10月8日、くまがやピンクリボンの会の方たちによるがんに関するいのちの授業が吉岡中学校で行われました。受講した生徒達は、命がある事が当然ではないと言うことに気づかされたことでしょう。

読んで当てよう 市報クイズ

今月のテーマ、「2015年の目標」にいただいたコメントは、「おたよりパレット」や市ホームページで紹介させていただく場合があります。

応募方法

ハガキまたはEメールに、クイズの答え・住所・氏名・年齢・電話番号・今月のテーマ「2015年の目標」のコメントを必ず記入し、11月21日（金）までにご応募ください（一人につき一通）。
《応募先》〒360-8601 宮町二丁目47番地1 熊谷市広報広聴課
✉ kohokocho@city.kumagaya.lg.jp
※なお、市内の商店・企業を知っていただこうという趣旨で、当選者にはプレゼント引換券をお送りしますので、お店でご使用ください。当選者の発表は、プレゼント引換券の発送をもって代えさせていただきます。

9月号の正解　①防災　②星川お祭り広場
◆応募総数58通中、正解51通

今月の問題

次の［　　］に入ることばを、それぞれお答えください。
① 平成27年度版「熊谷市［　　］」の掲載作品を公募します！
②平成27年4月、［　　］が、鶴ヶ島市から市内江南地区へ移転、開校します。

今月のプレゼント

バックパッカーズランチご提供のグリーンカレーセット（※ランチ限定）を、正解者の中から抽選で10人に提供します。
所在地：熊谷市星川2丁目86
電話：080-3406-2109

市報クイズでは、プレゼントを提供していただける商店・企業等を募集しています。詳しくは、広報広聴課☎内線212までお問合せください。

情熱世代 夢追い人

「目標はラグビーワールドカップ日本代表」

（U20ラグビー日本代表・筑波大学ラグビー部）

橋本 大吾（だいご）さん（肥塚）

熊谷で培ったラグビーの基礎

ラグビーを始めたきっかけは、熊谷工業高校ラグビー部出身の叔父の影響です。物心ついたときには、自然とラグビーにのめり込んでいました。

実は当時、飯能市に住んでいたんです。父が熊谷出身であることに加え、ラグビータウンである熊谷市の方が環境が整っていたため、小学校3年生の頃から週末だけ熊谷のラグビースクールに通っていました。そして、熊谷で中学校のラグビー部に入るため、入学を機に熊谷市に引っ越してきました。

キャプテンとしての責任

深谷高校ラグビー部に入部してからの練習量の多さは、それまでとは比較になりませんでしたが、その甲斐あって私達の代で初めて全国高校ラグビー大会ベスト16に入ることができました。練習の成果が結果に繋がると、それまでの辛さは吹き飛びますね。3年生の時に、高校と埼玉県代表チーム両方のキャプテンを務めたのですが、それからは試合全体を考えてプレーするようになりました。今でもその経験が活きていて、私を成長させてくれた時期でしたね。

海外試合を経験して

現在は、筑波大学ラグビー部に所属しています。去年から招集されたU20のラグビー日本代表のメンバーとしては、チリやオーストラリア、香港で試合をしました。海外トップチームの選手は本当にフィジカルが強い。でも、それを言い訳にしたくありません。どうしたら自分達の強みを活かすことができるのかを常に考え、外国チームと戦う時はとにかく「低いプレーで勝つ」という事を意識できるようになりました。IRBジュニアワールドラグビートロフィー2014という大きな舞台で優勝できた事は、とても大きな成果です。

2019年にラグビーワールドカップが日本で開催されます。その時、私は25歳。年齢的にも中心的存在になると思いますので、日本代表として出場したいですね。そのためにも練習を頑張りますので、皆さん応援をよろしくお願いします。

スクラムを組む橋本さん

来て！見て！知って！文化財

熊谷聖パウロ教会

—温かみのある煉瓦（れんが）造りの礼拝堂— 宮町1-139

熊谷市の市街地に位置する日本聖公会・熊谷聖パウロ教会は、明治15年（1882）、東京でイギリス国教会の教えに共感を得た熊谷在住の人々の運動が発祥となっています。明治18年（1885）には、この運動に応じて、日本人最初の聖公会聖職者である田井正一氏の説教会が開かれ、その翌年には金井登氏が当地へ派遣され「熊谷教会」を創設しました。大正4年（1915）には、現在地に新たな礼拝堂を造る計画が提案され、翌年に米国人のウィリアム・ウィルソンによって設計が行われました。そして、大正8年（1919）、着工から4年の歳月を経て煉瓦造りの教会が完成しました。

設計したウィルソンは、立教大学の礼拝堂や校舎、日本聖公会川越基督教会なども手掛けている建築家であり、煉瓦を組み合わせる建物構造の設計に多くの力を注ぎました。その綿密な設計と併せて、日本で焼成（しょうせい）された上質な煉瓦を使用していることから、関東大震災にも耐え抜き、また昭和20年8月の熊谷空襲による火災被害からも免れました。

建物は鐘楼を持つ平屋建ての構造であり、建築面積141㎡。鐘楼の1階部分が入り口ポーチとなり、礼拝堂にはベストリー（礼拝準備室）が付設されています。創建時の屋根は洋瓦でしたが、戦後に日本瓦に葺き替えられています。外壁と内壁は煉瓦を積み重ね、それを支える木造の小屋組みや窓枠からは温かみが感じられ、祈りの場としての静寂さをたたずませています。

◆江南文化財センター　TEL048-536-5062

人口と世帯　平成26年10月1日現在（対前月比）

■人口　201,787人（-45）　男　100,632人（−19）　女　101,155人（-26）　■世帯　83,515（+72）

「市報くまがや」11月号は、72,400部作成し、広告料収入を差し引いた印刷・製本にかかる市の負担は、1部当たり14円です。
「市報くまがや」は、再生紙を使用しています。

●発行日　平成26年11月1日　●発行　熊谷市
●編集　広報広聴課　〒360-8601　熊谷市宮町二丁目47番地1
TEL048-524-1111（内線206）　FAX048-520-2870

「市報くまがや」は、毎月1日（原則）に発行し、自治会を通してお届けします。また、市役所・行政センター・出張所・公民館・駅連絡所などでもお配りしています。インターネットでも「市報くまがや」をご覧になれます。（URL）http://www.city.kumagaya.lg.jp/